

## ご挨拶



### 就任のご挨拶

柿本 直也 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 歯学分野 歯科放射線学 教授

この度、広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門（歯科放射線学）の教授を拝命し、平成28年10月1日付けで着任しました。この場をお借りして皆様にご挨拶申し上げます。

私は大阪の出身で、平成8年に大阪大学歯学部を卒業し、大阪大学大学院歯学研究科に進学し、歯科放射線学教室に入局しました。当時、測端孟先生（現名誉教授）が教室を主宰されており、放射線治療にて癌が治ること、画像診断を行うことで見えないところの病変を指摘できることに驚きと面白さを感じ、毎日のように新しいことに触れる生活を送ることができました。学位取得後は、大阪大学大学院医学系研究科集学放射線治療部（現放射線統合医学講座放射線治療学教室）にもお世話になり、全身治療としての放射線治療を学びつつ、口腔癌に特化した放射線治療の習得に励みました。画像診断と放射線治療の両方に関わることができたことで今日に至ったと感じております。

広島という放射線にとって特別な場所で、放射線分野に携われることは研究者冥利に尽きますし、大きな責任を背負うことと感じております。諸先生方のご指導を賜りながら、在籍されている先生方と協力して、歯科放射線学の臨床、教育、研究、人材育成に励み、研鑽していきたいと思っております。何卒、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## 座右の銘

### 「患者ファーストの医療を実践すること」

片岡 健 医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 保健学分野 成人健康学 教授



私のMy mottoは、小池都知事の話ではないですが「患者ファーストの医療を実践すること」です。私は乳腺外科医としても広島大学病院と市内の病院で外来診療を継続しています。乳癌患者の多くは助かりますが、中には手術や放射線照射等による術後変形やリンパ浮腫出現等の合併症、薬剤投与等に起因する副作用で苦しまれる方もいらっしゃいます。2003年に保健学科に移ってからも、様々な分野の教育や研究に触れ、乳腺外科診断・治療へも応用できないかいつも考えて参りました。今では定期的な乳腺外科医、病理医、検査技師の方々と症例検討会や、看護師や薬剤師、リハビリテーションの方々と術前後カンファを行っています。私自身、乳腺手術を終えて患者や医療者から『先生が手術された傷は綺麗で乳房の形も良いですね』と、感謝やお褒めの言葉を頂いた時には、患者ファーストの医療を実践できて良かったと思います。また2008年には数名で広島リンパ浮腫研究会を立ち上げ、ボランティアとして賛同され集まった乳腺外科医や産婦人科医、看護師、リハビリや患者会の方々と協同して、年1～2回患者対象の講習会等を行って参りましたし、元広島大学工学研究科の先生や院生と共同でリンパ浮腫計測用弾性メジャーも開発しました。更に現在、チーム医療に繋がる多職種連携教育（IPE）が推奨され広く実践されてきていますが、霞キャンパスでも2016年4月から1年次生を対象としたIPEを開始することができました。これらはいずれも患者に最善と思える医療を提供することに繋がるでしょう。私はこれからも「患者ファーストの医療実践」を常に念頭に置いて参りたいと思います。